氏名	新 免 寛 治
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博乙第３７５０号
学位授与の日付	平成１４年６月３０日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 （学位規則第４条第２項該当）
学位論文題目	原発性肝癌の治療効果判定における経静脈性造影剤 (Levovist)併用超音波検査の有用性の検討
論文審査委員	教授　平木 祥夫　教授　田中 紀章　教授　槇野 博史

学位論文内容の要旨

経静脈性造影剤（Levovist）併用超音波検査の原発性肝細胞癌（HCC）治療効果判における有用性について検討した。HCC に対し、肝動脈塞栓療法あるいは経皮的マイクロ波凝固療法等の内科的治療後に、A群（８例、10 腫瘍）ではダイナミック CT のみにて、B 群（7 例、８腫瘍）ではダイナミック CT と Levovist 併用超音波検査を用いて治療効果判定を行った。治療６ヶ月後に局所再発を検討した。A群では１０腫瘍中６個(60%)に、B群では８腫瘍中１個(12.5%)に再発が認められたのみであった。Kaplan-Meier 法による非再発率の解析では、B 群ではA群に比較して有意に非再発率が高かった（P = 0.045, Log-rank test)。以上より、Levovist 併用超音波検査は HCC 治療後の効果判定に有用であると考える。

論文審査結果の要旨

本研究は、原発性肝細胞癌（HCC）の治療効果判定における経静脈性造影剤（Levovist）併用超音波検査の有用性に関する臨床的研究である。HCCに対し、肝動脈塞栓療法あるいは経皮的マイクロ波凝固療法等の内科的治療後に、A群（8例、10結節）ではダイナミックCTのみにて、B群（7例、8結節）ではダイナミックCTとLevovist併用超音波検査を用いて治療効果判定を行い、治療6ヶ月後に局所再発を検討したものである。その結果、A群では10結節中6個（60％）に、B群では8結節中1個（12.5％）に再発が認められ、Kaplan-Meier法による非再発率の解析では、B群ではA群に比較して有意に非再発率が高かった。これらは、HCC治療におけるLevovist併用超音波検査の有用性について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。